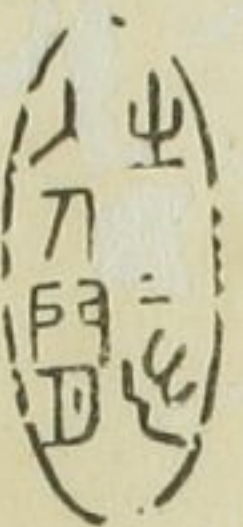


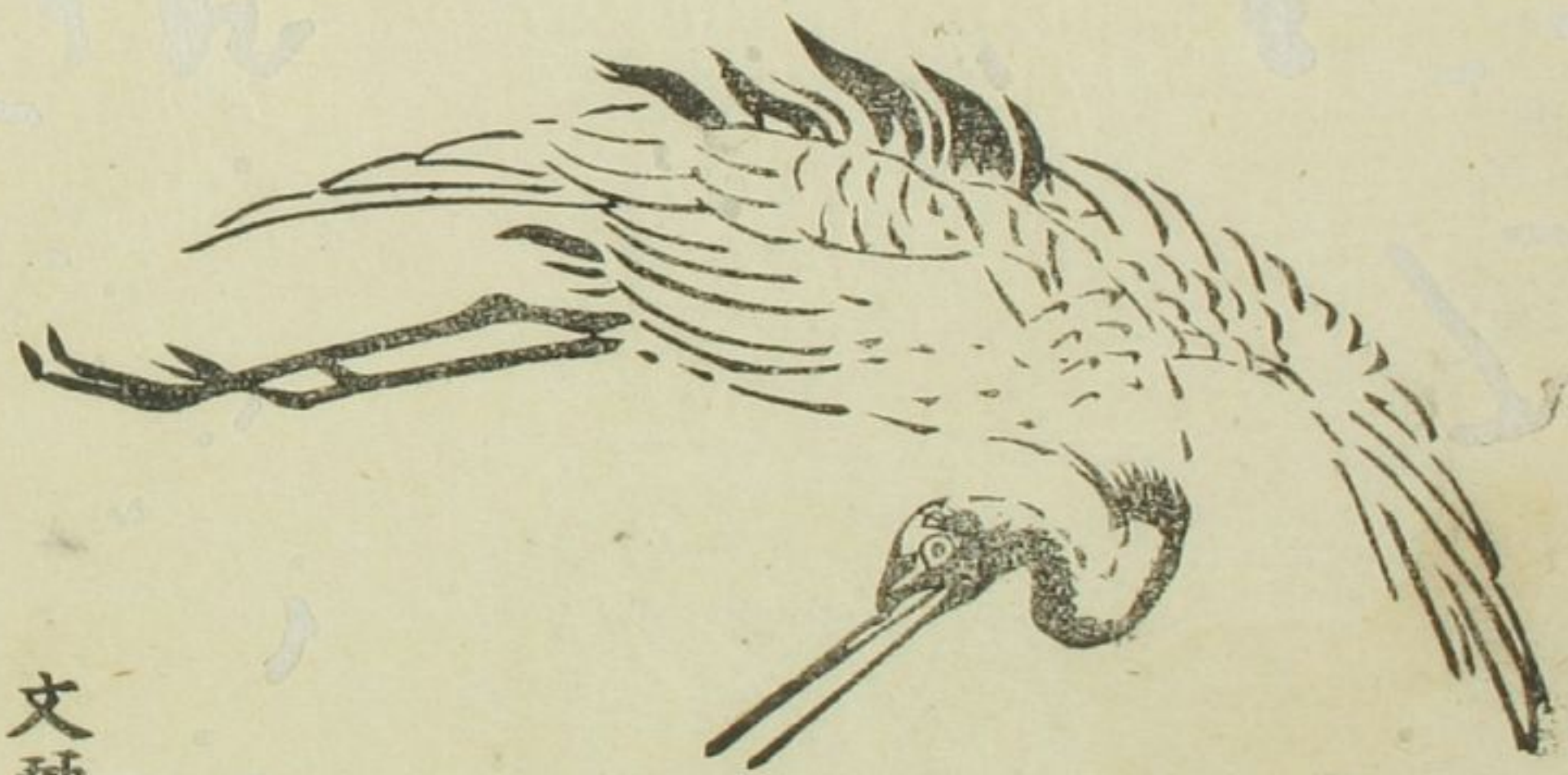
中村俊定文庫



藏旦

深川 親和 篆





文政
画
印

安永五丙申

誠有

兼好法師のくはとらりし
まぐさくはまひよせ

佳儿すよとよりぬえんのす

ま真

年ゆきし梅や四五輪ニ三三

維子啼て古城んつは理才小

木部

廿日

壽

君代や宿願下り号
紫掃ふ誰うゝ魚多様鮫

望峯殿

心伝堂



洞湖珠乃鏡も指しし初々城
金屏乃夾待多光の信修促

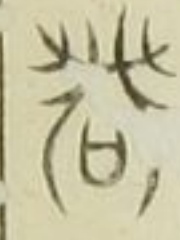
雪隠楼

文花

嶽

壽玉垣乃折挿る年治小
し乃度の投入白し梅らん

投玉



73

自雪より山かくりと
年浪乃多勢きり歌り女

玉花

壽

松屋やと風子をの花乃春
雨と見ししを乃おをよとしの書

ね喃亭

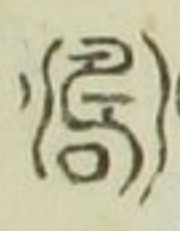
十車

壽

先夜小難を乃力かもか
り雪しの一度し書所を電止

夏立

十軒



梅さくわこ川ハ流るぬ神の井戸

南

若井

去時の人乃信る赤部山
鏡るる水くまありぬ幸一和

須古卷
善成



たのもしきや敷るるり初居
みよりみより和やや幸れ言

玉書堂
子次



若水や桐子敷るるるハ
空を敷るるぬより幸一和

玉書堂
長米



後こしは法よりせん言の枝

筆

多折の装たしそるるる海を心

全



神鶴の鳴くや五妻れつねの夜
あしをた鳥の声やうー忘

十瓦政
千百



鏡るる一もた端きや初より
心らくれるしきりぬ幸の幸

如市



一燈を初しきりくんまの産
み自らそるる海乃幸や言 純

摩摩

道子笑のちる魚や松乃其
人そ泉をたふすぬさしの浪

之橋

巖

えり中今里と續ゆ小寺系
小系女もゆきこ一破家松の氣

江

山

これ思やあまし余の初る味
鞆と持て勇強くく風の言

清幸改

牛成

巖

若竹や引掛したる山寺系

系

年れ多浪吉の汗の子信子常ぬ

全

巖

葉乃系門妹の世の浪牛系
神乃は雲人かき年れ市一山

福外

巖

く川着如系合船り女連
欲や在れ糸糸地一窓船

子

巖

初室のあかちまや木の青浪
吾の船りまらつて江のち終り

女柿

見わくことばを此中しの初りう南
の薪伐ふは木のりく下屋鋪
伊勢くはく久の輝也経海を
十高盤の玉も汗かくゆを外
家つらけきくも或る川りうを
嫁婦の羽き 掃くく 夫りる
妻一本持て酒賣さ翁う南
天々代や何いとささくつ後
白雲の如く水くわくもさく
縁のけくはくはるるの縁は

金巻

糸友

歌殿

舟

新糸

其價万由國戸を山り日新
世初又時えし子孫よま此糸
昔の研やさるり乃凡るは縁を
園の戸をまめくも通は梅の縁
帯着けて解け湯田や志事柄
此紅を等しおしさわふ糸
鶯
鶯啼きを聞きししは縁也明高
況しはるる是うあらくんをまかり
一つ家の帯新しむえんは糸

馬

糸

糸

糸

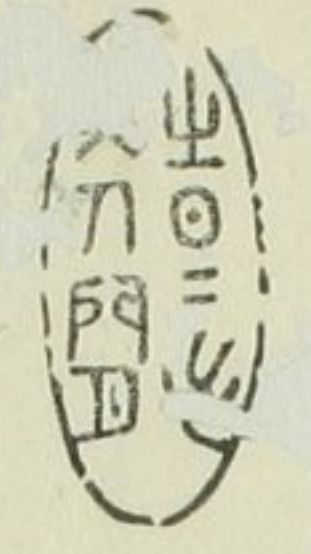
玉貴

昔糸

糸

志々
 新編
 湖舟
 十尾
 清々
 着俳

しのぶのちりきき都子志にり
 れるしふあやふ年れ控え
 ぬりぬんすきや神のゆき水
 年れ年急うとくしるまきあ
 えりや待とのとくま風れ新
 ぬるれ井乃せよけく深英の
 四海ふふ能子あふ初言さ
 けきやあけけけけけけけ
 かせきと懐きしそそ那れ
 けきやあけけけけけけけ

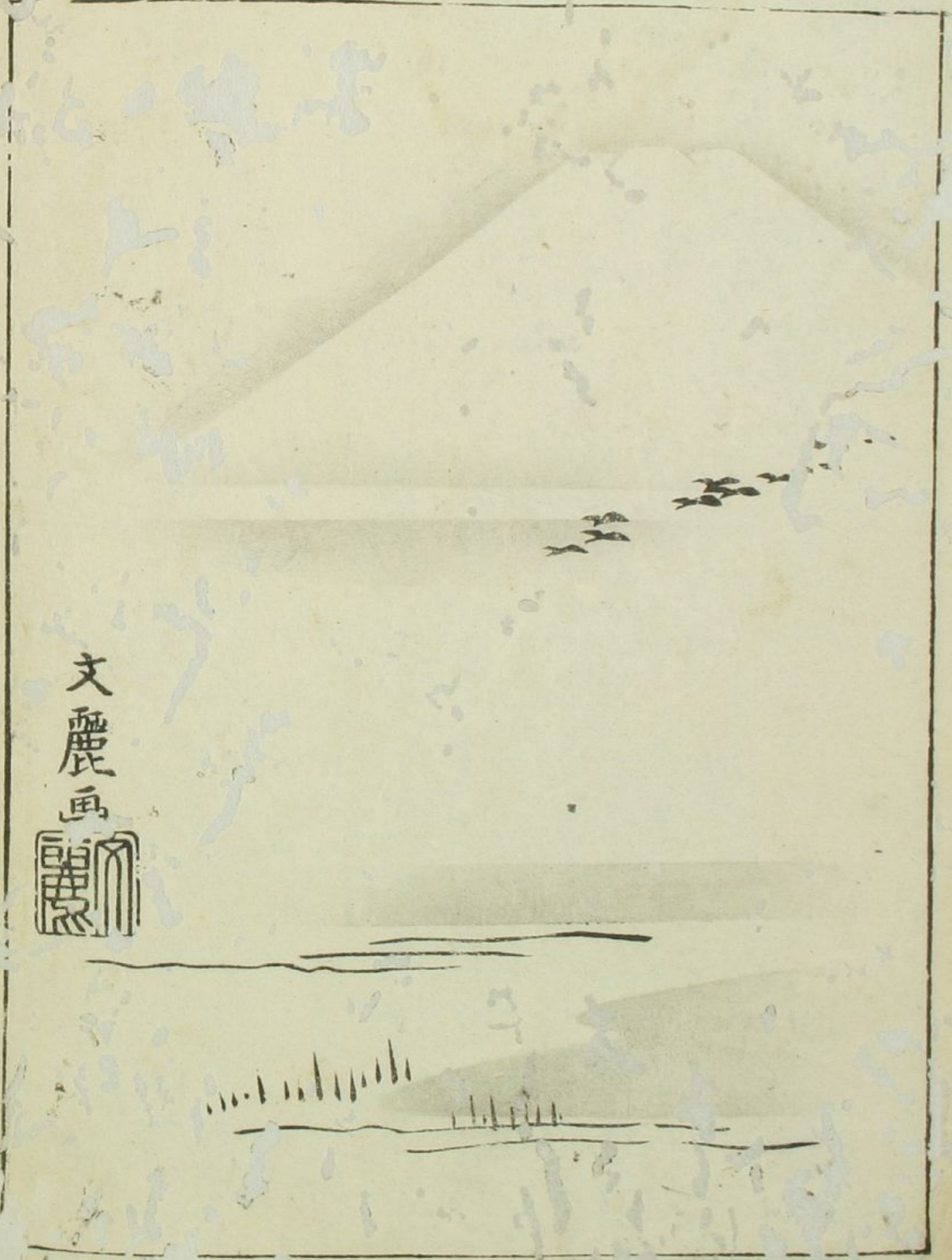


夢 賦

深川 親和家
 味



此の春も天のちかき
 雲の月
 梅のやうな日
 小の
 春の甲子
 遠江の
 雲成



文麗画



子乃後場喰りしは
ち標は

田

果乃戸を越ふは
りゆ樹の志

田

野乃中を食ひしは
一葉

十車
十蝶
玉我



雪乃野中を食ひしは

きよ川

田

石乃石を食ひしは

柳乃石

田

石乃石を食ひしは

石乃石

布
千百
席明





瓜 花 一 去 一 来 一 年 一 一 年
 茶 插 孝 成
 茶 留 乃 返 之 乃 一 一 年
 一 夕 之 花 丹 子
 喜 此 日 乃 新 詠 乃 一 一 年
 乃 一 一 年 乃 紅



乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃





一
人
以
書
白

揚

ま

中

茶

揚

七
十



一
書
乃
中
子

有
如
鳥
力

以
其
本
福

夕
子

97





梅、春の先、冬に先

名乃月 成落亭 子 梅

厚

梅、冬に先、春に先

梅、冬に先、春に先

壽

梅、冬に先、春に先

梅、冬に先、春に先

お女 川



出の三ツノ

此城暮

深川親和義

東の島を以て何れも

高き山ありて其の山に
うらやまの光風の中
海士ありて其の山に
高き山ありて其の山に

原

高き山ありて其の山に
高き山ありて其の山に
高き山ありて其の山に
高き山ありて其の山に

高き山

高き山

高き山

高き山

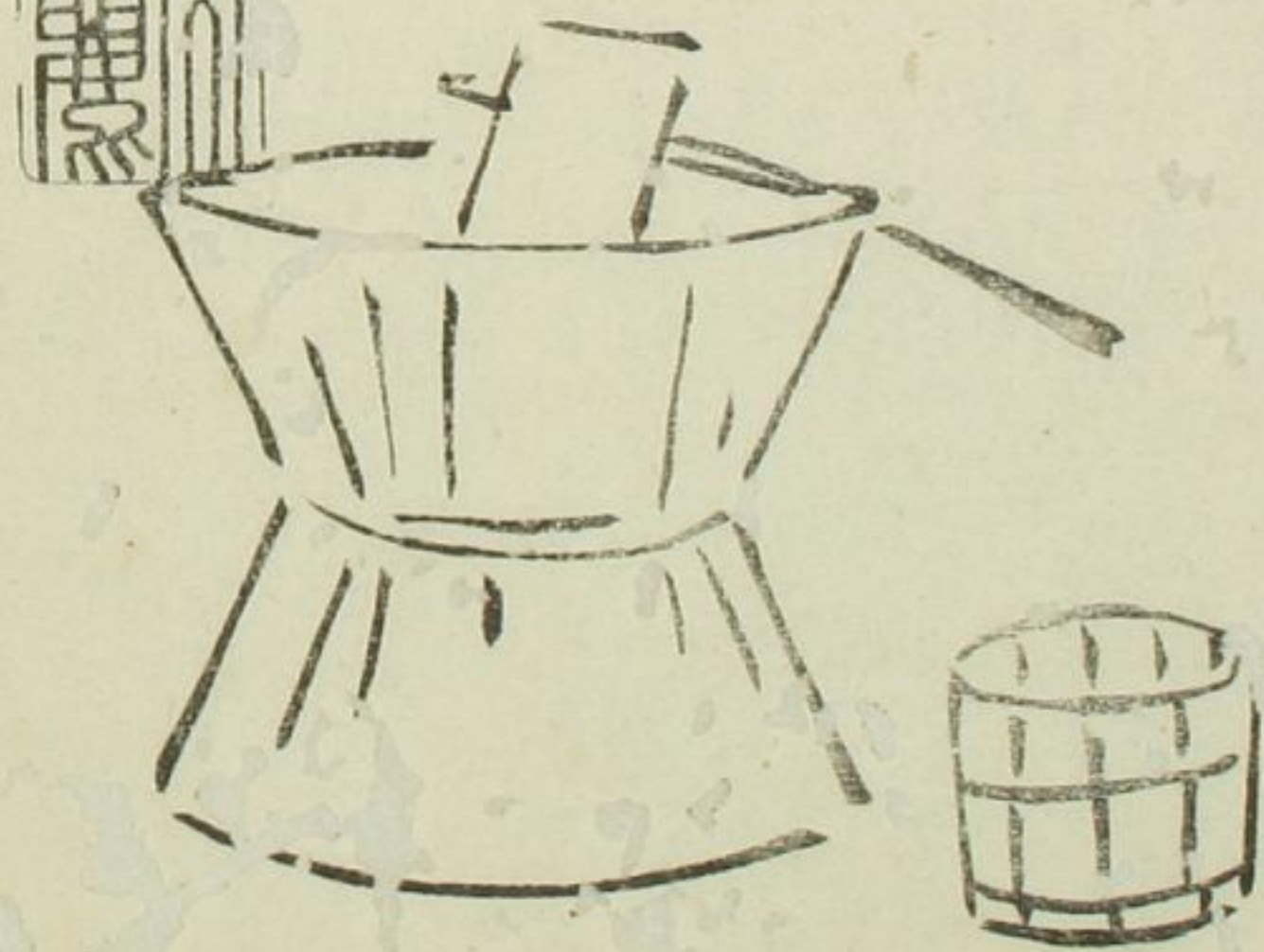
高き山

高き山

高き山

高き山

天竺鉢画



草枝よは君の初言と毒のよ
蜂採やしる 龍葉れむるり
又むかしも川越るるは之十
皆人の子惜まるとや 市乃言
人並みこゝろの嬉れを待たぬ
吉原の露堂いさしきれ月
河豚汁もね乃後やし大喰い
大火をせ言ふくしやし一の言
い今もさしや神水の神る災
踏ちりて三の海をれも色外
池舟 五圍 洞芝 九宮 風沛 凡車 春水 和江 之春

雪の如か言ふ 杉 本多さ
いなくは世に 一はいす
く久のいさしとて 歩りいさ
さすもき 雛子乃 鳴く(ききき)
松橋よ流川ぬ本(の芽出い
水くしとぬ ぬ細いふら
さすもけとと 春の徳者川
さす御舟日を晴乃 舟時
いさしと 鐘をなむら 蓋る木
雪ゆくき(月の光 水
新車 松水 海舟 生音 十町 二道 石木 長川

標 一 爪を替えき 年廿六

七 髭ハハツ 鬚之 年廿七

りきとふく 髪を拂ひて 年廿八

志 乃やそれ 命長の 茶入しめ

何とて 亦よとんす 葛 一町

多かり 船長 船 川家 目 車

替さや 梅もつよ 柳もむし 芦 葛

山や 阿ふと の 調 夕 天

神りて 人の 夢の 中 糸 本 暮 冠

年 毎 又 思 也 了 さは 心 の 春 屋 之

道 年一 柘 鳴 不 疑 矣 ぬ 年

年 雨 乃 志 認 の 舟 小 馬 の 止

の 後 ひと 因 際 唱 くる 夏 の 因

ま への 乃 乃 乃 亦 小 舟 舟 茶 小

草 や 暮 暮 下 置 け 花 あ の う へ

夫 敷 入 の 乃 乃 乃 舟 舟 の 者 ち ら ち

そ 解 や 草 の 戸 出 舟 松 と の

の 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

ま 海 若 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

お 上 ち 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

<small>在</small>	<small>平</small>	<small>七</small>	<small>年</small>	<small>廿</small>	<small>六</small>	<small>年</small>	<small>廿</small>	<small>七</small>	<small>年</small>	<small>廿</small>	<small>八</small>	<small>年</small>	<small>廿</small>	<small>八</small>	<small>年</small>	<small>廿</small>	<small>九</small>	<small>年</small>	<small>廿</small>	<small>十</small>	<small>年</small>	<small>廿</small>	<small>一</small>	<small>年</small>
君	之	月	荻	雲	村	園	月	化	化	化	化	化	化	化	化	化	化	化	化	化	化	化	化	

一	志	一	町	舟	五	船	一	年	廿	六	年	廿	七	年	廿	八	年	廿	九	年	廿	十
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

此等が標中ノ重名第1号

甲品 三ノ巻

名号及伝達

誰と行か師をもふと	本州
海山と国と	秀保
佐ち	貞高
之廻	牛若

賞

羊の内乃	一	漢
云	雲	山
と	坑	三

年	運
年	運

賞

年	運
年	運

賞

年	運
年	運

賞

年	運
年	運

松山に雲を霞のふさや梅はら
如堂

松山

ついでにちをききあふ乃笑人呼を人
字貝

物に相志をえたりしが名 齋
治山

ふとくしと年ル馬連年の名
不言

さしらと年 ちをききあふ乃笑人呼を人
賞言

ふとくしと年 ちをききあふ乃笑人呼を人
子彦

ふとくしと年 ちをききあふ乃笑人呼を人
川治

あしとくしと年 ちをききあふ乃笑人呼を人
河原

ふとくしと年 ちをききあふ乃笑人呼を人
人彦

人形と系をひりり 手は 彦
社

えん版おゆり 正次三十一日

あしとくしと年 ちをききあふ乃笑人呼を人
方井

松山

浪中いさかあふり ちをききあふ乃笑人呼を人
暮太

松山

待ふ年とあふり ちをききあふ乃笑人呼を人
百

松山

物月形とあふり ちをききあふ乃笑人呼を人
与物

松のこゝろ ちをききあふ乃笑人呼を人
る月

春

さるくこと四季をまめししを梅の花
梅もよみまめしこと梅の花のそら

未熟
梅房

筆尾

女日坊

ちよくてもろ

國香

ふりふり山が春鶴

歌

之

追か

藤乃粉此白き心念の師をい
かりて琴の柱を筆の筆をい
梅柳さるくよくめく古戸い
梅探しよても葉やとるん
梅さるくも葉あつらひ香り
わけ流るやゆめ久しき二柱

雪祇
沖香
志父
お我
晋弘
北日

去とささちよ

風号たひぬ

新し文ま小きりり

かほしと風の一文字か雲中

東園

